

33. 広島県賀茂地方の居蔵造り農家に関する研究 ～季節風と集落配置構成の関係～

05168087 松岡英俊
指導教員 市川尚紀 講師

季節風 集落 配置構成 居蔵造り

1. 序論

東広島は自然の中に伝統的な居蔵造りの集落が散在する美しい風景を有しているが、人々のライフスタイルとともに住居のかたちも変化し続けている。一部の人は今でも居蔵造りの民家を建てているが、その他の多くの建物は伝統を全く継承しておらずこのままではこの地域独特の个性的で美しい風景は消えていってしまう。全ての建築物が様式、材料まで完全に居蔵造りを継承するのは難しいが、先人たちが長い時間をかけて培ってきた自然とともに暮らす知恵を生かしていくことは可能である。

そこで本研究では、東広島市の伝統的な居蔵造りの農家、盆地、里山、水田、ため池、河川などの集落の構成要素の配置と季節風との関係性を知ることを目的とする。それにより、この地域の気候風土にあった集落構成の意味を再認識し、新たな建物が構成されるときに有用な資料となること願う。

2. 研究の手順

- ①集落の抽出:空中写真をもとに東広島市内の集落を構成する構成要素をトレースし、そのまとまりを1つの集落として抽出する。それにより集落の散らばり方を把握する。
- ②分散タイプ:抽出した集落を「地形」「集落の形態」「民家の並び方」に着目して分類する。その際、民家の途切れを境界線とし、市街地は除外する。
- ③代表的集落の選出:各分散タイプから一つの集落を選出する。その際、ため池または河川が近く、里山を有する集落を選ぶ。
- ④風配図の作成:観測所のデータをもとに風配図を作成し、東広島の夏季・冬季の季節風を把握する。
- ⑤配置構成と季節風の考察:小田地区を例に集落の配置構成と季節風との関係を考察する。

3. 集落の抽出と分類

「地形」に着目すると平地となだらかな斜面にある集落を平地タイプ、棚田タイプに分けることができる。「集落の形態」に着目すると山間や森を線状に挟むようにつくられた小規模な集落があり、それを線状タイプとした。「民家の並び方」に着目すると、民家と水田の分かっている地域を民家水田離別タイプがあった(図1)。

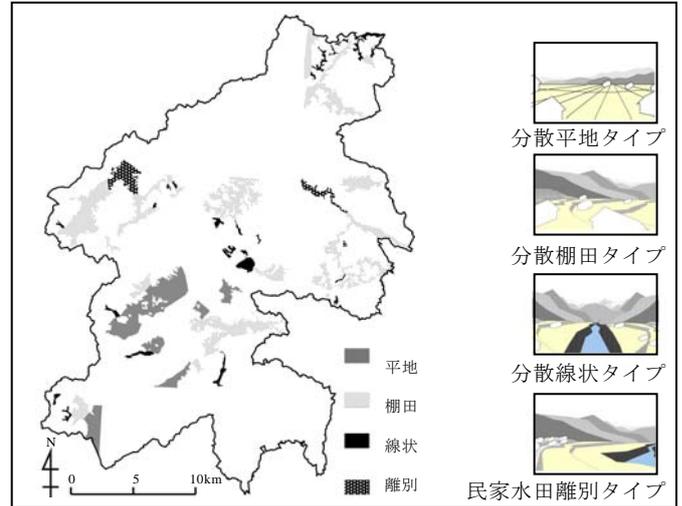


図1 東広島の集落のタイプ

3.1 分散平地タイプ:西条町田口地区

このタイプは都市部に隣接しているものが多く、都市化にともないこれから姿を変えていく可能性がある。田口地区は、一面山に囲まれた盆地に分散的に民家が建っている。南から南西向きに玄関を設けている。

3.2 分散棚田タイプ:河内町小田地区

このタイプは主要な道とは近いが都市部分からは離れたところにある。小田地区は集落の周りにため池が存在し水田に通ったあと中央の川に流れる。土地に起伏があり棚田が形成されている。民家も他のタイプに比べ地形の変化を利用して建てられたものが多い。

3.3 分散線状タイプ:西条町田口地区

このタイプは平地タイプ、棚田タイプと接するようにして存在した。規模は20軒程度で分散している。田口地区は南北が山に挟まれ、西に向かい緩やかな斜面となる。北側の民家は森に近い位置に建てられ南側は山と距離をとっている。これは日照確保のためだと考えられる。

3.4 民家水田離別タイプ:河内町河戸地区

このタイプは東広島で2地区のみであった。2地区の共通点として山側から民家、水田、河川の順で構成されていた。農家と水田が分かれ、土地も別々の場所に持つ人が多い。民家は山沿いに隣接し、東西方向に並ぶ家が多い。上流で川の水を引き水田に利用するため、ため池から引く農家は山沿いの一部の農家のみであった。

4. 集落の構成要素と季節風

この地方の季節風を把握し、主に冬季における季節風への配置構成からの対策を考察する。

4.1 季節風の把握

八本松観測所のデータにもとづき風配図を作成した(図 2)。冬は、一日を通して西側からの風が吹き、早朝は静寂が多い。夏は、時間により昼から翌日の朝にかけて南～西側にかけて風の吹く方角が変化する傾向が見られた。

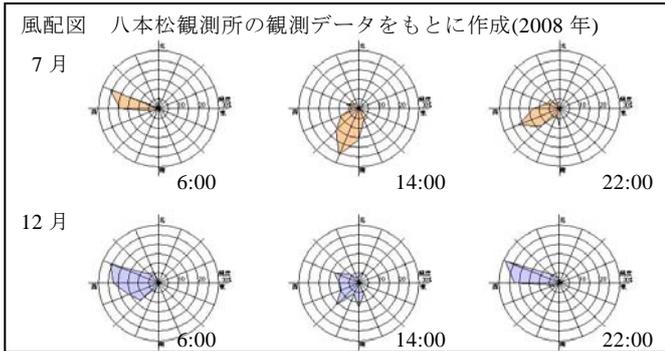


図 2 東広島の風配図

4.2 民家の季節風に対する配置構成

冬季における西から吹く季節風に対する配置構成は以下の 4 種類がみられた(図 3)。この中で 2 つ以上の対策を併用する民家もみられる。

- a. 「塀や木々を配置する」:すべてのタイプの集落に存在し、一番よく見られる。主に西側から北側を囲むものと敷地全てを覆うものがある。
- b. 「森を防風林とする」:すべてのタイプの集落に存在する。土地が斜面になっているところが多い。
- c. 「地形を利用する」: 棚田タイプに多く見られ、1 階のみ隠すものと 2 階部分まで隠すものがあった。風に対して有効だが 2 階部分まであるものは採光が限られる。
- d. 「隣の民家を壁にする」: 線状タイプ、棚田タイプ、民家水田離別タイプにみられる。ここでは西から吹く季節風への対策のため、東西方向に並ぶものとする。



図 3 季節風に対する配置構成

5. 河内町小田地区の季節風と季節風に対する集落配置構成の関係

小田地区の季節風に対する配置構成を図 4 に示す。この集落の個々の民家での季節風に対する配置構成を見てみると、a～d の 4 タイプの対策を行う建物が全体の約 83% を占める。その他 12% (24 軒) のうち 5% (10 軒) は居蔵造りではない一般住宅であった。この地域の建物の多くが、南側に玄関をつくっている。南北方向に開口があり、風が抜けることで夏の通風も確保でき快適に暮らすことができる。また、居蔵造りでは東西方向には大きな開口をつけず、生活空間を玄関から東側に配置していることも、西からの冬の季節風への配慮と考えられる。

6. 結論

調査した居蔵造り農家の分散タイプは、地形・民家の並び・形態により 4 つのタイプにわけられた。個々の民家では、冬の季節風に対する配置構成が 4 種類見られた。いずれも「塀や木々」「森」「地形」「民家」といった遮蔽物を風上に配置し、開口部を少なくする対策である。

7. 課題

この研究は、空中写真による分析のみで集落配置構成と季節風との関係性を把握したため、代表集落の季節風の実測やヒアリングなどを行う必要がある。また、実測により風の制御効果を定量的に把握することや、八本松観測所のデータと対象地の季節風が年間を通して類似しているかを確認する必要がある。

主要参考資料

- 1) Google Earth 2) アメダス(気象庁)
- 3) 中俊治: 東広島のすまい 暮らしの新聞ひがしひろしま昭和 53 年掲載 4) 岡橋秀典: 東広島市における住民の景観意識と景観保全-赤瓦景観を中心として-

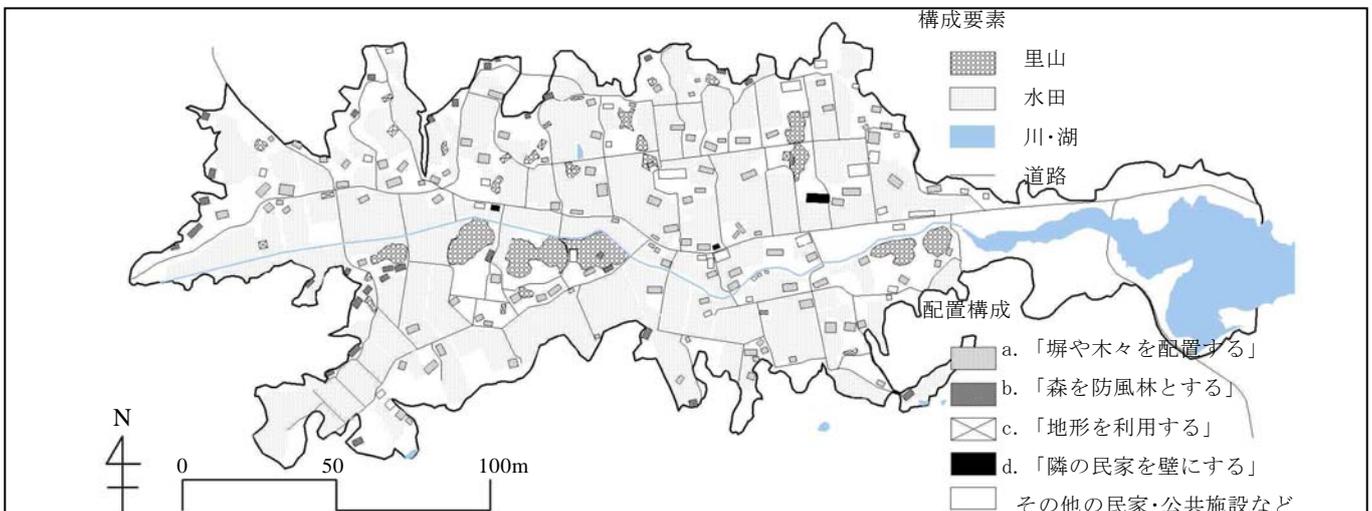


図 4 河内町小田地区の配置構成